

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2020年 3月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

大齋節を迎えて

「み言葉によって生きる」

司祭 ミカエル 小南 晃



大齋節は復活日に備える期間ですが、古くは洗礼志願者が受洗に向けて準備する期間でした。彼らは、それまでの生活を悔い改め、また信仰の学びと訓練のために断食や祈りに努めたのです。最初、そのように洗礼志願者の訓練期間であったもの

が、やがては信徒も信仰の初心に帰ることに努めて、教会全体にとっての修養と克己の期節となつて行きました。「大齋節を失う者は、一年を失う」と言われます。共にこの時を大切に過ごしたいと思えます。

この誘惑は、直接的には断食で飢えているイエスに、自らの肉体的欲求の為に御力をういさせようという罫ですが、同時に神の子の救いの業に対する挑戦でもありました。「もし人々を救いたいのなら飢えから解放すれば良いではないか、その為に神の子としての御力を用いよ」という誘惑です。

しかし、単に飢えを満たすことで人は真の救いに至りません。パンへの飢えが満たされると次なる欲望が生まれ、

「見よ、その日が来ればと／主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく／水に渴くことでもなく／主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。人々は海から海へと巡り／北から東へとよるめき歩いて／主の言葉を探し求めるが／見いだすことはでき

は、イエスが荒野で受けたサタンからの三つの誘惑が記されています。その第一の誘惑は、「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうか」というものでした。

み言葉を聞けない飢え

ともすれば、私たちはこの世の誘惑に誘われて、神のみ言葉に耳を塞ぎがちです。

きない。その日には、美しいおとも力強い若者も／渴きのために気を失う。」
(アモス八・十一―十三)
私たちは、ただ肉体的に生きていくだけでは幸福にはなれません。「生きがい」が必ず必要です。そして私たちに与えられた真の「生きがい」を与えてくださるのは、神であり、神のみ言葉です。

今、この「主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴き」が世界を覆っていないかどうか、それが気付かないうちに私たちの心にも及んではいないかを振り返ってみたいと思います。

誘惑との闘い
さて大齋節は、主日を除いて四〇日間続きます。これはイエスが荒野で四〇日間、断食してサタンの誘惑と闘われたことに因んでいます。マタイとルカの福音書に

「見よ、その日が来ればと／主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく／水に渴くことでもなく／主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。人々は海から海へと巡り／北から東へとよるめき歩いて／主の言葉を探し求めるが／見いだすことはでき

この大齋節にあたり、まずは私たち自身が、今一度「神のみ言葉」を熱心に求め、満たされたいと思えます。そして私たちが、ささやかであっても「み言葉の糧」を携えながら、この世界の飢えと渴きを癒やして行く器になれるように目指して参りましょう。

(姫路顕栄教会牧師)

防災学習会報告及び 教区(社会部)における 防災に対する今後の課題

繋がりの大切さ

去る一月十七日(金)、神戸聖ヨハネ教会にて、阪神淡路大震災追悼礼拝が行われ、その後、第四回目の教区防災学習会が開催されました。

今回は、「震災という出来事、そして、復興へ」の日、今、そして、これから



「〜というテーマのもと、四名のパネリストの方々(東北

教区越山健蔵司祭、大阪教区木村幸夫司祭、九州教区柴本孝夫司祭、神戸教区瀬山会治司祭)によるパネルディスカッションを行いました。

これまでの災害ボランティア活動の映像を視聴し、その後、四つのテーマ、「ご自身が体験された災害…ボランティア活動、そして、現状について」、「これまでの体験を通して」、「振り返り…これまでの体験を通してどのような変化があったか?」、「これから、わたしたちはこの先、どのように備え、生きるべきか」についてパネリストの先生方の声を聴き、質疑応答という流れで学びの時を過ごしました。



私たちが住む日本では、阪神淡路大震災後も、長岡水害、新潟県中越地震、東日本大震災、紀伊半島大水害、熊本地震、西日本豪雨災害、台風十九号など様々な災害に見舞われてきましたが、その中であつて様々な災害ボランティア活動に従事してこられたパネリストの方々の体験談、想いを聴くことが出来ました。

紙幅の都合上、全ての内容を記すことはできませんが、四つのテーマの中の最後のテーマ、「これから、わたしたち

はこの先、どのように備え、生きるべきか」ということからの「備え」について、「人と人との繋がりが、そして、神さまとの繋がりを大切にする(瀬山司祭)」、「他者のために祈る、共に支え合う教会の構築(木村司祭)」、「物資の備蓄だけでなく、心の支え、他者との関係性を築いていくこと(越山司祭)」、「アングリカンコミュニティの宣教の五指標の五にある『いのちを想うこと、他者を想う心を体現すること』(柴本司祭)」という言葉を聴きました。

活の中における自分と自分が置かれている世界、自分と他者、自分と神さまとの関係性を問うものであり、自らの生き方、教会のあり方を見つめ直すことへの招きの言葉でもありました。

これからについて

神戸教区(社会部)としては、これまで行ってきた災害ボランティア活動を振り返りつつ、防災の際の支援体制の更なる構築を検討すること、また各教会において物資の備蓄、災害発生後の安否確認等、連絡網を整え、防災意識を高めて頂けるように呼びかけていくことを大切にしたいと思えます。他教派の中にもあり、防災について、発災時における対応等についての学びも深めてまいりたいと思います。

ここに共通していることは、単に物資を備蓄しておくというだけでなく、日々、他者への想い、他者との関係性を大切にするといい、長いプロセスを要するキリスト者としてのあり方、生き方に目を留めておられる点です。

災害時に困らないための災害対策だけでなく、日常の生

活の中における自分と自分が置かれている世界、自分と他者、自分と神さまとの関係性を問うものであり、自らの生き方、教会のあり方を見つめ直すことへの招きの言葉でもありました。

(司祭林 和広・社会部)



「主は恵み豊かで、その恵みを忘れるな」

一月十五日(水)と十六日(木)まで、ナザレ修女会が会場に『会友世話人の集い』が行われました。北海道から沖縄まで、八つの地区から二十三名の世話人が集まりました。受付を済ませ荷物置いて、午後五時の開会礼拝のために礼拝堂に座った瞬間、「主は恵み豊かで」という声が心に響いて来ました。

「え、どういうこと?」と少し考えて心に浮かんだことは、これまで色々な修道院で、色々な恵みを頂いたなあ、ということでした。大学時代、友人たちと青年交流会を立ち上げ、垂水の聖使修士会の修道院で黙想会をしたことがありました。宝塚の黙想の家で、神戸教区主催の召命黙想会に参加したこともありました。宝塚では、聖職按手前のリトリートもさせて頂きました。

一九八九年、英国南部の

チチエスター神学校に留学しますと、南アフリカから帰国された聖使修士会のアントニー・ペリー司祭がチャプレンとして着任されたところでした。神学校がお休みで閉鎖された時は、同司祭の招きで、ドラムの修士会の分院やウイレンの本院で長期滞在させて頂きました。

広島時代、お祈りについて学びたいとカトリック教会の神父さんにお尋ねして、イエズス会の清水弘神父を紹介させて頂きました。清水神父さんがおられた庚午カトリック・センターで、霊操というイエズス会のお祈りの方法を教えて頂き、長束の黙想の家で、八日間の霊操を何度か指導させて頂きました。

今年は大斎始日(二月二十六日)から三日間、宝塚の黙想の家で、個人黙想の予定です。

過去にあった一つ一つの恵みを数え上げていきますと、将来、どんな素晴らしい恵みを神様は準備してくださっているのだろうか、と思えて心が満たされます。みなさんのお近くに、修道院はありませんか。

ある教会では、土曜日から日曜日にかけて、信徒さんが教会に泊まり込んで、黙想会をされています。神様との静かな時間を持つことができます。恵みを受ける近道だと思います。

(神戸教区主教)

阪神淡路大震災記念礼拝
角瀬司祭の説教から「これからの私たち」

一九九五年一月十七日、震度七という激震に襲われた神戸聖ヨハネ教会、この神戸聖ヨハネ教会において、震災から二十五年目の阪神淡路大震災記念礼拝が行われました。

これを一つの節目として、この震災記念礼拝をこれからどのように守っていくかを改めて検討しようとしています。

記念礼拝での説教者は、角瀬克己司祭。発災当時の勤務教会は神戸聖ミカエル教会でしたが、震災時は出張で韓国に滞在しており、直接震災を経験していない自身と、同じ神戸で生活しながら直接被災した方との見えない違いに葛藤した心模様を語られました。「直接体験した方々は、徐々に平常の生活に戻っていく過程において、少しずつ、落ち着いて自分と向かい合っていく、震災で何を経験したのか、どんな出来事だったのかを冷静に見直し始める、そして心の内に沈んでいた様々な気持ちがわき上がってくる。この過程の違いが、

見えない違いの印象につながったのではないかと語られました。

それから数年たった後に、神戸聖ヨハネ教会で記念礼拝を行うことになった際にどのような礼拝を行えば良いのかと考え、「被災者の方々の心



のうちにある思いを、神様の前にさらけ出し、その悲しみや苦しみを訴えるような仕方にしたいと考えました」と語られました。預言者エリヤが、一人の未亡人の病死した息子を神様に訴えて蘇生させた物語、未亡人の悲しい訴えを受け止めて、未亡人に代わ

り彼女のために祈る預言者エリヤの姿がヒントになったとのこと。

一人ひとりの悲しみや苦しみについて、「アメリカ在住のユダヤ教のラビで『なぜ私だけが苦しむのか』を著したハロルド・クシュナーが、人が一人でいるのではなく、共に居てくれる人がいることの重要さを指摘している」と紹介されました。寄り添っている人がいることによって、それが生きる力になること、そして「宗教の最も原始的な役割は、人と人とを結びつけることにある」と、この本の中で他の宗教学者が語っているそうです。

この先を生きる私たちは、災害と隣り合わせに生きていくと考えても間違いはないでしょう。私たちは、寄り添う人になるのか、寄り添ってもらう人になるのか、どちらにしても目の前の出来事の困難を背負いながら、信仰の内にともに歩むことが求められているのでしょうか。ともに歩むことが出来るように信仰の備えを心がけたいと思います。

(聖職候補生
宮田裕三・社会部)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

二〇一九年十二月二十五日(水)
アシジのクララ
レ オ 北 裏 千 廣
高知聖パウロ教会 悠

祝 堅 信

一月十九日(日)
マッテヤ 谷 良 孝
ペテロ・パウロ 中 村 紀 翔
松山聖アンデレ教会
一月十二日(日)
ヨセフ 干 飯 響
グレゴリス 藤 井 怜 子
アンジェラ 蔭 山 凛
姫路顕栄教会

ご 逝 去

一月五日(日)
スザンナ 田 中 タツ子
下関聖フランシス・ザビエル教会
一月十二日(日)
マリ ア 石 田 久 乃
神戸聖ミカエル教会

一月十八日(土)
伝道師 マリア 津 口 和 子
下関聖フランシス・ザビエル教会

山 陰 伝 道 区

一月十二日(日)松江基督教
会を会場に、山陰伝道区合同礼

拝と第一回伝道区会が行われ、
伝道区内から約三〇名の方々が
集まりました。礼拝後昼食会、
第一回伝道区会が行われ、全て
の議案が可決されました。
これからの山陰伝道区の働き
のために祈りください。



広 島 伝 道 区

一月十一日(土)、広島伝道
区会を呉信愛教会にて開催。聖
餐式後、一年間の振り返りと新
しい年の計画を立てました。会
の最後には、昼食会で交わりの
時をもちました。



4月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2020年4月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 柳本 博人

* 4月の記念逝去教役者

1日	執 事	パウロ	中村	四朗
2日	司 祭	パウロ	鈴木	尚夫
2日	司 祭	ヨハネ	小南	弘
5日	伝道師		岡井	ちゑ
7日	伝道師		億川	八郎
11日	司 祭	パウロ	広瀬	興吉
11日	宣教師	メアリー	サン	ダー
13日	伝道師		井上	トヨ
13日	司 祭		荒砥	琢哉
15日	司 祭		山内	豊吉
15日	司 祭	ペテロ	小池	耕造
15日	司 祭	ジョン	マクドナルド	
16日	伝道師		鶴野	瑛治
17日	司 祭		堀	六郎
18日	司 祭	ヨハネ	桑原	一郎
19日	司 祭	ジョージ	ストロング	
19日	伝道師		高山	ゆき
22日	司 祭		トマス	入交 源治
23日	司 祭		村田	里
23日	伝道師	マリア・マクダレン	神崎	幸子
25日	司 祭	ヨハネ	瀬山	岩雄
28日	主 教	バジル	シンプソン	
28日	主 教	ジョン	マ	ン

公 示

救主降生2020年2月1日
日本聖公会神戸教区主教
主教 オーガスチン 小林尚明

神のお許しあれば、下記のとおり聖職按手式を執行し、
執事 バルナバ 永野拓也を公会の司祭職に、
聖職候補生 ルカ 宮田裕三を公会の執事職に按手叙任いたします。
主にある諸教会、兄弟姉妹のご加禱と関係者各位のご臨証をお願い
いたします。

記

日 時：2020年3月21日(土) 午前10時30分
(9時30分より朝の礼拝)
場 所：日本聖公会神戸教区 神戸聖ミカエル大聖堂
神戸市中央区下山手通5-11-1
司式者：日本聖公会神戸教区主教 主教 オーガスチン 小林尚明
説教者：司祭 ミカエル 小南 晃
式典長：司祭 ダビデ 林 和広

ランベス募金のお願い

目的：2020年7月23日～8月2日、英国カンタベリーの
ケント大学で行われる第15回ランベス会議に教区を代表
して出席される小林主教のため。

- ① 募金目標額：180万円
- ② 募金期間：2020年2月～6月末

詳しくは各教会に配布された趣意書・献金袋をご覧ください。